

土地整理土木工事業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	2	10 ～ 11	マンション駐車場増設工事において、ドラグショベルでコンクリート製L字擁壁を設置箇所に吊込み人力で微調整していたところ、擁壁が転倒したため、側溝用掘削壁面とL字擁壁との間に挟まれた。	611	7	1～ 9
1999	2	13 ～ 14	ほ場整備工事現場において、不整地運搬車が勾配約8度～2度の作業道を登っていたときに、作業道より約8.4m下に車と共に転落した。	227	1	1～ 9
1999	4	11 ～ 12	森林公園遊歩道の災害復旧工事において、不整地運搬車で土砂を積載して走行中、遊歩道の路肩から不整地運搬車とともに池に転落し水死した。	227	1	10 ～ 29
1999	4	14 ～ 15	木造平屋家屋の解体作業で、ドラグショベルで廃材を集める作業を行っていてドラグショベルと共に転倒し、ショベルのヘッドガードと地面との間に挟まれた。	142	2	10 ～ 29
1999	5	13 ～ 14	軽トラックで工事現場の西側から同一現場内東側の測量場所へ向うため、現場敷地を出て県道を走行中、信号機のない交差点で右折しようとして対向車と衝突した。	221	17	30 ～ 49
1999	5	3 ～ 4	夜中までスポーツ施設屋外工事の写真の整理を行っていて、仕事を終え同僚とともに社有車で本社へ向かう途中、誤って電柱に激突した。	231	17	50 ～ 99
		14	造成工事において、法面階段工の階段ブロック設置作業の下地モルタルを			10

1999	5	～ 15	バケツにより運搬していて、調整池に転落した。	418	1	～ 29
1999	4	～ 18	ほ場整備工事において、現場の地盤の手直し箇所が生じたため、測量係の指示する測点に立ち「スタッフ」を保持していたときに、後進してきたブルドーザーの右履帯にひかれた。	141	7	1～ 9
1999	1	～ 12	伐倒木を運搬作業中、坂の途中で凍結と積雪のためトラックが立ち往生したのでチェーンを取りに行き、帰ってみたところトラックが約6.6メートル後方の橋の下に転落しており、別ルートで伐倒木を運搬していた者が下敷きになっていた。	221	17	10 ～ 29
1999	7	～ 15	車両系建設機械で刈り取った草の集積作業をしていて、途中で機械から降車しようとしたときに転倒し、左側頭部を機械に打ちつけた。	142	3	10 ～ 29
1999	8	～ 12	雪崩対策で鉄骨の角柱を埋め込む工事中、掘り出した土砂を運ぶ「もっこ」を斜面上部へ取りに行こうとしたとき、上から落ちてきた直径40～50cmの石にあたり、約13m、転落した。	711	4	1～ 9
1999	8	～ 17	朝から炎天下の屋外で土工事等を行っていたが、夕方になって休憩場所の木陰で寝ているところを発見され、顔色が悪いため病院へ搬送したが死亡した。	715	11	10 ～ 29
1999	8	～ 15	団地の法面修復工事のため勾配約30度の法面をドラグショベルで掘削作業中、ドラグショベルが転落し、その下敷きになった。	142	1	10 ～ 29
1999	8	～ 17	屋外現場で測量補助作業に従事していたが、午後の休憩後は作業の必要がなかったため1人でそのまま休憩していたところ、仕事が終了しても姿がなかったため同僚が付近を探したところ、休憩場所から約150m離れた道路沿いの畑の土手に倒れていた。	715	11	1～ 9
1999	8	～	空港滑走路改修工事で生じたがれきを処理プラントに運ぶため10tダンプで走行中、カーブを曲がりきれずにガードレールを突き破り、約5m下の国道	221	17	1～ 9

		11	へ横転・転落した。			
1999	10	9 ～ 10	クヌ木(根元約35cm)を伐倒したところ、背後にあった樫の木が根元から倒れてきてその下敷になった。	712	5	50 ～ 99
1999	3	14 ～ 15	コンクリート製側溝の底にコンクリートを打設するため、側壁と地山の間(幅40cm、地山、側壁の高さ約1m)に立ち、ミキサー車のシュートの移動及び側溝内のコンクリートを手で均す作業を行っていたときに、側溝の全長31mのうち約20mの側壁が倒れ、地山と側壁との間に挟まれた。	418	5	1～ 9
1999	12	14 ～ 15	カルバートを敷設するためのドラグショベルで掘削を行っていたときに、掘削(深さ4m)直後の地山が崩壊し、掘削溝の中で測定用ポールを立てていた者が埋まった。	711	5	10 ～ 29
1999	12	15 ～ 16	伐採した枝等を資材置場に搬入し、ドラグショベルのバケットをクラッシャーに交換した機械で枝等を移動させる作業を行っていたときに、斜面から約6m下の用水路にクラッシャーとともに転落した。	149	1	10 ～ 29
1999	12	9 ～ 10	建設現場で使用する機材をトラックに積み込む作業で荷台(地面からの高さ約1m)に載って、機材の数量点検を終了し荷台から降りるときに、転落した。	221	1	1～ 9
1999	8	14 ～ 15	家屋解体及び竹林の伐採工事現場において、伐採した竹をドラグショベルで集積場所へ移動させるため、右方向へ約170度回転させたときにドラグショベルの左側後部で作業をしていた者の頭部に激突した。	142	6	1～ 9
2000	4	23 ～ 24	現場の見回りをすると行って出かけ、川に転落している乗用車とが発見された。	231	17	10 ～ 29
2000	9	15 ～ 16	公園の隣りにある物置解体後の後片付け作業で、作業に使用していたローダーより降りようとしたときに、ローダーが動き出してひかれた。	225	7	1～ 9
		8	宅地造成工事において、吊り上げ荷重2.9トンのクローラクレーンで長さ4			10

2000	11	9	メートルの単管53本(約580kg)を吊り上げているとき、クローラクレーンが左側に転倒しオペレータが下敷きになった。	212	2	～ 29
2000	10	11 ～ 12	雨水排水管理設工事において、マンホールの築造前に付近に埋設されている水道管の位置確認のため、深さ1.5mの掘削底面に降りて手掘りで地山壁面を掘削していたときに背面の地山が崩壊し、砕石塊(約200kg)に背後から直撃された。	711	5	1～ 9
2000	11	9 ～ 10	駐車場整備工事で、区画ロープを取り除いていたときに、土砂を運搬していた同僚が運転するフォークリフトに激突された。	222	6	1～ 9
2000	11	7 ～ 8	現場に自家用車で向う途中、信号機のある県道交差点内に直進したところ、右折してきた乗用車に右側面を衝突され、車外に放り出された。	231	17	10 ～ 29
2000	1	11 ～ 12	土木工事用資材を運搬していた2tダンプトラックが勾配8度から12度の上り坂で停止したところスリップして坂を約20m後退し、進行方向右側の土手(高さ約2.2m)から転落、助手席に乗っていた者が車から投げ出され下敷きになった。	221	1	50 ～ 99
2000	7	9 ～ 10	県営ほ場整備の工事で、未舗装道路に砕石を敷くための丁張り用の板を切っていたときに、後退してきたドラグ・ショベル(バケット容量0.24?)にひかれた。	142	7	10 ～ 29
2000	11	16 ～ 17	ドラグ・ショベルで鉄筋の束(約1.6t)を吊り上げてブームを左旋回させたときに、バランスを崩して約10メートル下に転落した。	142	1	1～ 9
2000	9	16 ～ 17	工場建設予定地の地質にボーリング機械を搬入するための仮設路を造成する作業中に転倒したバックホー(機体重量2.8t)とそのキャビンの柱との間に胸部を挟まれた。	142	2	10 ～ 29
2000	5	14 ～	山林で伐木作業中、伐倒木と枯木がつるでつながっていたため、枯木も同時に倒れてきて枯木の下敷きになった。	712	5	10 ～

		15				29
2000	2	3 ～ 4	事業場の2階にある作業員寮で就寝中に事業場が焼失し、焼死した。	514	12	10 ～ 29
2000	4	16 ～ 17	宅地造成工事において地山を掘削した土をクローラ式ドラグショベルで移動(旋回)中にドラグショベルが転倒し重機から放り出された。	142	2	1～ 9
2000	7	16 ～ 17	宅地造成工事において、基礎コンクリートの型枠設置とコンクリート打設作業中に気分が悪くなり、モデルハウスの水道のところで休憩していたが、現場方向へ移動しているときに、養生シートの斜面の上方から約5m転落した。	711	1	1～ 9
2000	12	14 ～ 15	造成作業中の埋立地において、ブルドーザーを運転していたところ、埋立地盤とともに内海に滑り落ち、運転席に閉じ込められて溺死した。	711	5	30 ～ 49
2000	1	9 ～ 10	コンクリート擁壁の基礎部分へコンクリートを増し打ちする作業で、擁壁の反対側からドラグショベルでコンクリートを入れたバケットを擁壁を越えて地面に降ろし、その後、同じ場所で作業をしていた作業員がドラグショベルに乗り込もうとしたときに着衣が操作レバーに引っ掛かったためバケットが動き、大腿部がバケットとフーチングの間に挟まれた。	142	6	1～ 9
2000	7	16 ～ 17	工事現場において、擁壁の型枠パネル取付け作業中に気分が悪いと訴えたので病院へ搬送したが熱中症により死亡した。	715	11	1～ 9
2000	8	17 ～ 18	伐採した木材(直径10cm、長さ2m)を2tトラックで資材置場に運び、トラックの荷台上から人力で降ろす作業中に木材とともに荷台から落下した。	522	1	1～ 9
		19	水道管布設作業後の片付け作業で、2tトラック荷台上の水タンクの水で手を洗うため後方に駐車されていたもう一台の2tトラックのヘッドライトを			1～

2000	9	～	点灯するように同僚に指示し、同僚がエンジンを起動させたときにトラックが前進してきたため水タンクを載せたトラックの荷台との間に挟まれた。	221	6	9
2000	6	10 ～ 11	山林の砂防工事において、伐採作業中に伐倒木の下敷きになった。	712	4	10 ～ 29
2000	6	9 ～ 10	山を果樹畑(梅園)にするため、ドラグショベルで作業中に造成地の斜面下に転落し、キャビンに挟まれた。	141	1	1～ 9
2000	3	14 ～ 15	油圧ショベルで排水溝のコンクリート打設作業中、油圧ショベルの運転者がジャンパーを操作レバーに引っかけたまま(左旋回状態)ロックレバーを解除したため、バケットのコンクリートをスコップでかき出していた者にバケットが激突した。	142	6	1～ 9
2000	1	11 ～ 12	街路等整地工事において、擁壁背面部の埋め戻しのためドラグショベルで土砂を搬入したときに、敷き均し作業を行っていた者が現場に隣接する建物とバケットとの間に挟まれた。	142	7	10 ～ 29
2001	3	9 ～ 10	道路側溝の集水枡(蓋付き)内に溜まった土砂を歩道上に取り出すため集水枡に近ずいたときに道路を走ってきたトラックにはねられた。	221	17	30 ～ 49
2001	3	15 ～ 16	伐採作業現場において、ドラグ・ショベルのアタッチメントをフォークに替えたもので立木の上方を支え、チェーンソーを使用して胸高直径34cmの杉立木の伐木作業を行っていたところ、伐倒木の根元が跳ね上がり、これに激突された。	712	6	1～ 9
2001	4	14 ～ 15	工事現場の監督助手が軽トラックでカメラ屋に寄りその後現場で打ち合わせして営業所に戻る途中、緩やかなカーブでセンターラインを超え対向の大型トラックと正面衝突した。	221	17	10 ～ 29
		15	宅地造成工事において、土留め用PC盤をドラッグショベルで吊り上げて設			10

2001	5	～ 16	置しているときに、PC盤が倒れ下敷きになった。	611	5	～ 29
2001	6	～ 15	14 道路修復工事に使用したドラグショベルを積載型トラッククレーンに積込 む作業中に荷台に掛かったドラグショベルのクローラーが滑って横転し、 15 ブームの下敷きになった。	142	6	1～ 9
2001	7	～ 10	9 ゴルフ練習場の新築工事において、150ヤード地点の目標となるカップの位 置を見るため組んだ仮設の足場を解体するため、高さ3.5m足場に載って 10 作業をしながら転落した。	411	1	1～ 9
2001	7	～ 11	10 道路工事に使用する竹を伐採中、蜂(通称「ササバチ」と推定)に左脇付近 を1箇所刺され、約2時間後に収容先の病院で死亡した。	911	90	30 ～ 49
2001	4	～ 15	14 宅地造成工事において、吊り上げ荷重2.9tの車両積載型トラッククレーン の荷台に積まれた質量1780kgの側溝を吊り降ろす作業で、ジブを右方向に 15 旋回させ作業半径3.5mにブームを伸ばしたときクレーンが傾き、最初に 降ろした側溝とクレーンの助手席のドアとの間にはさまれた。	212	7	1～ 9
2001	8	～ 15	14 地盤改良工事のためのパイル打設作業で、生石灰をホッパーに投入するた め袋(約1.7t)を移動式クレーンにより吊上げ、くい打機の生石灰投入用 15 ホッパーの上に配置しようとしたときに、ホッパー上部にはめ込まれてい る受け皿(直径約1m、重さ約72kgグラム)が外れて落下し、地上で作業して いた者の頭部に当たった。	149	4	1～ 9
2001	7	～ 17	16 自社倉庫においてトラックの荷台から建設部材を積み下ろし、作業終了 後、専務が労働者に隣接している別倉庫へ徒歩で行くように命じトラック 17 を移動するため後向きで町道に出たときに歩行中の者をひいた。	221	17	1～ 9
2001	11	～ 7	6 4tダンプで走行中、運転を誤って道路左側の川に転落し、車外に投げ出さ れた。 7	221	17	30 ～ 49
		16	既設擁壁(高さ3・4m)と新設擁壁の間の小段(幅2・5m)で落石防止用仮設土			

2001	12	～ 17	留め柵の撤去作業のため、柵の柱に梯子を架けて4～5段上ったとき足を滑らして小段に落ち、バウンドしてさらに既設擁壁の下の路上まで墜落した。	371	1	1～ 9
2001	12	～ 15	試験杭の打ち込み作業において、上杭(φ800mm・長さ11m・重さ9.74t)を主巻きにより吊り込み、オーガーへ取り付けるため玉掛け作業を行っているときに、クローラクレーンが傾いて吊り上げていた杭材が激突した。	212	6	～ 29
2001	5	～ 18	工事現場から出た型枠の残材をトラックからフォークリフトで荷卸しし、フォークリフトを駐車スペースに戻すため走行していたときに、フォークリフトが転倒して運転席から投げ出され、フォークリフトのヘッドガードを支える鉄枠とコンクリート地面との間に頭部をはさまれた。	222	2	1～ 9
2002	1	～ 15	移動式クレーンの旋回半径内のアウトリガー付近に立っていて、旋回してきた上部旋回体とアウトリガーとの間に挟まれた。	212	7	30 ～ 49
2002	2	～ 16	遊歩道の整備工事において、残土を不整地運搬車で搬送中（推定時速：8km）に路肩から約5m下に転落し、不整地運搬車から投げ出されてキャタピラと地面との間に頭を挟まれた。	227	1	1～ 9
2002	3	～ 11	土地造成工事で、ブルドーザーを運転して高さ1.35mの盛土を乗り越えたときに、運転席から転落してブルドーザーに轢かれた。	141	7	1～ 9
2002	5	～ 10	宅地造成工事において、クレーン機能付き車両系建設機械でコンクリート製の排水溝の蓋9枚を不整地運搬車の荷台に積み込む作業中、荷台上で荷の誘導等をしていた者が不整地運搬車のダンプボデーと荷との間に挟まれた。	212	6	1～ 9
2002	4	～ 7	社用車に3名が乗って宿舎に向けて自動車道を走行中、道外に逸脱した。	231	17	～ 29
		16	雑林地で自走式草刈機（長さ2.5m、幅1.3m、高さ1.2m、重さ890kg）を			10



2002	8	～ 17	使用して法面（高さ約3m）の草刈り作業中、バランスを崩して滑り落ち 乗っていた機械の下敷になった。	169	2	～ 29
2002	8	～ 14	13 駐車場の造成工事の一環として側溝にU字溝を敷設するため、隣家との境 界にあるコンクリート塀のコンクリート基礎部の一部をはつり機ではつっ 14 ていたときに、コンクリート塀が倒れて地面との間に挟まれた。	418	5	1～ 9
2002	10	～ 12	11 水路用ボックスカルバートを設置するため県道に接する部分をドラグシヨ ベルで掘削中、道路擁壁下部のU字溝の基礎部分の土砂が幅0.6m長さ2.0 12 mに亘って崩落したので掘削及び床ならし作業を中止して道具等の片付け を行っていたときに、土砂とともに道路擁壁が崩壊し下敷きになった。	418	5	1～ 9
2002	12	～ 11	10 土地区画整理に伴う擁壁工事において、擁壁内側の水捌けを良くする粗石 を入れるときに土と混合しないための仕切り鉄板（153cm×355cm×2 11 cm、質量約800kg）を栈木で仮固定（4箇所）していたときに、先に仮 固定した2箇所のうち上部の栈木が外れたために鉄板が倒れ、鉄板を背に作 業をしていた者に激突した。	522	5	30 ～ 49
2002	10	～ 12	11 水路用のボックスカルバートを設置するため県道に接する部分をドラグシ ヨベルで掘削していたところ、道路擁壁下部の土砂が幅0.6m、長さ2.0m 12 に亘って崩落したので掘削及び床ならし作業を中止して道具等の片付けを 行っていたときに、土砂とともに道路擁壁が崩壊し2人が下敷きになり1人 が死亡した。	418	5	1～ 9
2003	2	～ 11	10 土地造成工事のため、チェーンソーを用いて法面（のりめん）高さ約5mの ところで立木の伐木作業中に、法面（のりめん）より墜落した。	711	1	1～ 9
2003	2	～ 9	8 ドラグ・ショベルをトラックより積みおろすため、トラック後部荷台に掛 けた道板上を降りていたとき、機体が前方回転したため機体から投げ出さ 9 れ、機体（機体質量1480kg）の下敷となった。	142	1	10 ～ 29
2003	3	～ 7	6 資材を積んである2tトラックで現場へ行く途中、会社から出てきた25tラフ タークレーンと衝突した。	221	17	1～ 9

2003	4	11 ～ 12	農地区画整備工事において、建柱車（アースオーガー）が後退する際に機械の後部にいた者を後輪でひいた。	143	6	1～ 9
2003	5	9 ～ 10	建材店で購入した砕石を4tダンプで資材置場へ運ぶ途中、運転を誤って道路と並行して流れている川へダンプごと転落した。	221	17	10 ～ 29
2003	7	11 ～ 12	残土処分場の排水管の設置工事で、地山を掘削（幅33m、長さ5m、深さ5m）し、その中で3名がポリエチレン製の管（長さ5m、直径60cm）を敷設していたときに、法面（のりめん）の土砂幅6m、高さ約1.6m、土量10m <sup>3</sup> が崩壊し3名が埋まって1名が死亡した。	711	5	10 ～ 29
2003	10	9 ～ 10	高さ約7mのナラの木の新伐木作業において、伐倒木の長さ6m付近に結びつけていたロープを約17m離れた地点から軽トラックで引張って伐木したときに、交通誘導をしていた者のところに木が倒れた。	712	2	1～ 9
2003	10	10 ～ 11	山地内の整地作業において、ブル・ドーザーを運転中に隣接する農道（幅4m）を越えて4m下の川に転落し下敷きとなった。	141	1	1～ 9
2003	11	17 ～ 18	現場作業を終えてワゴン車で移動中、前方の車両の排気ガスのため視界不良となったので避けようとして中央分離帯を越えて対向車線にはみ出し、対向車両と正面衝突した。	231	17	1～ 9
2004	4	8 ～ 9	土地区画整理工事現場において不整地運搬車の運行経路上で盛土を掘削するための目印となる水系を巻き取っていたところ、後方から近づいてきた不整地運搬車のクローラにひかれた。	227	6	30 ～ 49
2004	1	8 ～ 9	造成工事現場にて、雑木を伐採している際に木が電線に接触し、はずみで近くの立木の枝に電線がかかってしまったことから、その電線を枝から外すため、電線がかかっている立木にはしごを掛けて上っていったところ、バランスを崩して転落した。	371	1	1～ 9
		15	ドラグ・ショベルをクレーンとして使用して、トラック等の通行帯用の鉄			

2004	11	～ 16	板を敷く作業中、敷鉄板へフックを掛け外しする作業を行っていた被災者が、次の鉄板をフックに掛けるため、鉄板が置いてある場所に向う際に、旋回中のドラグ・ショベルに接触した。	142	7	1～ 9
2004	9	～ 12	公園造成工事現場の木製杭の回収作業中、トラックの荷台からバランスを崩し転落した。	221	1	1～ 9
2004	4	～ 9	造成工事においてブルドーザーで山砂をならそうとしてエンジンをかけたところ後進し、法面（のりめん）（高さ85cm・傾斜51度）からブル・ドーザーごと転落した際放り出されて地面に激突したところへブルドーザーがまたぐ形で通過し、そのまま排土板に引きずられた。その後、同機が田んぼに差し掛かり上下に揚動した排土板に激突された。	141	1	1～ 9
2004	11	～ 16	分譲地の造成工事において、車両系建設機械（ドラグ・ショベル）で掘削した穴（深さ2.5m、幅5.5m、長さ6m）に入って、直径250mmの雨水管（塩ビ管）の敷設作業を行っていたところ、開削部分の中央に残していた高さ1.5mの地山の一部分が約5mにわたって倒れるように崩壊して被災した。	711	5	10 ～ 29
2004	8	～ 15	側溝のコンクリート打設作業のため2 tトラックの荷台上で生コンをスコップでバケツに入れる作業中、熱中症となった。	715	11	10 ～ 29
2004	11	～ 12	住宅地造成工事現場において斜面に生えた立木の伐採作業中、他の作業者がチェーンソーにより切り倒した木の下敷きになった。	712	5	30 ～ 49
2004	7	～ 14	資材置場に止めていたブル・ドーザー（機体重量3.3t）を資材置場から約100m離れた工事現場へ運転し向かったが、途中でエンジンが止まったため歩いて工事現場に行き、同僚にその旨を伝えてから再びブル・ドーザーに戻った。その後、現場に戻ってこない被災者のことを不審に思った同僚が見に行くと、ブル・ドーザー右側のクローラに仰向けの状態でひかかれている被災者を発見した。	141	7	1～ 9

2004	11	16	コンクリートの堤防設置工事において、測量作業中、事前に掘削し終えていた掘削面（高さ約2.5m、3分勾配）の岩石が、その上部とともにいきなり大量に崩落し、被災者が巻き込まれた。	711	5	30 ～ 49
2004	7	14	宅地造成工事において石垣組み作業を行っている際に、約70cm×70cm×60cmの石が被災者に激突し、背部にあった石との間に挟まれた。	711	6	1～ 9
2004	5	10	マサ土採取工事現場にて、支障木の伐採・集材作業を行っていた際、集材作業を行っていた重機が掴んでいた木材が、アタッチメントの誤操作により回転したため、近くで木材を玉切りしていた被災者に激突した。	149	6	10 ～ 29
2004	1	9	宅地造成現場において、ドラグ・ショベルの移動中、仮栈橋の段差を乗り越えるため、バケットを地面に押し付けて本体を浮かそうとしているとき、バケットが前方に滑り被災者に当たった。	142	6	10 ～ 29
2004	10	8	農地整備工事現場において測量作業を行っていたところ、被災者の左側方から後退で進行してきた不整地運搬車（最大積載量6000kg）のクローラにひかれた。	227	7	10 ～ 29
2005	11	17	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	711	5	30 ～ 49
2005	11	17	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	711	5	30 ～ 49
2005	11	17	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	711	5	30 ～ 49
2005	11	6	ライトバンで国道を走行中、信号のない交差点で右から進入してきた車に横から衝突された。	231	17	10 ～ 29

2005	4	9 ～ 10	運搬用の4トントラックにブル・トーザーを載せる際にバランスを崩して横転し、作業者が下敷きとなった。	141	2	～ 49	30
2005	3	11 ～ 12	配水管埋設作業において、配水管を設置後、埋戻しを行うために掘削箇所（幅2m、深さ3m）から移動しようとしたところ、法面が崩壊し、生き埋めとなった。	711	5	1～ 9	
2005	4	15 ～ 16	別荘建築予定場所の立木伐採及び片付工事現場において、被災者に伐倒木が激突した。	712	6	1～ 9	
2005	12	16 ～ 17	排水管設置の準備作業において掘削幅（約2mm、深さ2.5m）内に入り、丁張り作業を行っていたところ、掘削した面が崩落し、被災者らが埋まった。	711	5	～ 299	100
2005	11	11 ～ 12	農地災害復旧工事現場において、ブロック積み作業を行うためドラグ・ショベルの運転の業務を行っていたところ、4m下の地面にドラグ・ショベルとともに墜落した。	142	1	～ 29	10
2005	6	14 ～ 15	ほ場整備工事において、水路確保のためのヒューム管敷設作業中、埋め戻しのためのドラグ・ショベルの旋回範囲から離れるため、被災者が移動した直後、土砂が崩壊し埋まった。	711	5	～ 29	10
2005	4	10 ～ 11	ドラグ・ショベルを使用して斜面の掘削を行っていたところ、高さ10mの法面上からドラグ・ショベルごと転落し、運転席ごと潰された。	142	1	1～ 9	
2005	9	16 ～ 17	移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルを用い、石積みの作業を行っていたところ、突然、熱中症により倒れた。	715	90	1～ 9	
2005	1	8 ～ 9	ダンプトラックを運転中、警報機と遮断機がない踏切において列車と衝突した。	221	17	～ 29	10

2006	1	11 ～ 12	側溝整備等整地作業において、被災者は、長さ約11メートル・勾配23°～26°の斜面を、斜面下から斜面上へ不整地運搬車にて土砂運搬を行った後、不整地運搬車を運転しながら当該斜面を下りている時、不整地運搬車ごと前のめりに転倒し、不整地運搬車の下敷きになった。	227	1	1～ 9
2006	3	11 ～ 12	宅地造成工事現場において、土工事を行っていた被災者が、ドラグ・ショベル（機体重量2トン）を当該現場から別の場所にダンプに載せて移動させるため、ドラグ・ショベルを運転し、当該現場の斜面（約30度）に登っていたところ、ドラグ・ショベルが転倒し、回転した。この時、被災者は運転席から投げ出され、ドラグ・ショベルの下敷きになった。	142	2	1～ 9
2006	4	15 ～ 16	分譲宅地側溝等工事現場において、機体重量3.17トンのドラグ・ショベルの排土板による整地作業を行っていた際、被災者がバック走行してきたドラグ・ショベルのキャタピラの下敷きになった。	142	7	1～ 9
2006	4	15 ～ 16	圃場整備工事の現場において、ヒューム管設置作業を行っていたところ、地山（高さ約3m、幅約4.5m、厚さ50cm）が崩壊し作業員3名が生埋めとなった。（死亡1名、休業2名）	711	5	10 ～ 29
2006	5	14 ～ 15	労働者がドラグ・ショベル（クローラー式）で透水層側溝の掘削作業を行い、被災者が掘削壁面を透水シートで覆う作業を行っていた。重機が掘削方向を変えるために掘削面を確認できるだけ右旋回し後進してきたところ、掘削箇所の上で作業を行っていた被災者が右キャタピラで轢かれた。	142	7	1～ 9
2006	6	15 ～ 16	現場は防災用堰堤予定箇所の上面の平らな土場で、側溝の手前に生じた残土をドラグ・ショベルの排土板により均す作業を行っていた。被災者は石を拾い集め片付けていたが、後退するショベルの左側クローラー後方に轢かれた。	142	6	1～ 9
2006	7	16 ～ 17	法面工事終了後、材料等をトラックに積み込む作業を行っていた被災者が、座り込んでいたところを同僚に発見された。発見時、被災者は意識がはっきりせず、救急車で病院へ搬送されたが、死亡した。	715	11	1～ 9
		9	小型のドラグ・ショベル（総重量約3トン）をトラックの荷台から地面に卸す作業において、左右の履帯それぞれに合わせて金属製の道板を敷き、			10

2006	7	～	10	ショベルがその上を移動していたところ、ショベルが横転して近くにいた被災者にショベルのアームが激突し、被害者はアームと建物（店舗ショーウィンドー）の間に挟まれた。	142	6	～	29
2006	7	～	18	作業現場内を巡視していた被災者ほか1名は、雷鳴が接近してきたため作業を中止させることとし、手分けして作業員に中止を指示していたが、被災者が作業員に作業中止を指示しているときに、被災者に落雷した。	719	13	1～	9
2006	9	～	11	被災者は、単独で整地用車両系建設機械を運転し、盛土の整地作業に従事していたところ、高さ2メートルの土の法肩が崩れて、被災者は運転していた整地用車両系建設機械と共に地上に転落し、運転席と地面との間に挟まれた。	141	1	～	29
2006	10	～	15	宅地造成現場において資材搬入のために停車していた3トンドンプトラックが、傾斜8度から10度の坂道を約26メートル後退し、地下駐車場の型枠解体作業をしていた被災者に激突した。	221	6	～	29
2006	4	～	14	農地造成等工事において、単独で作業を行っていた被災者が、ブル・ドーザーを運転し、傾斜地で後進したところ、ブル・ドーザーごと転落し、運転席から放り出され傾斜地で転落したブル・ドーザーに潰された状態で発見された。当該ブル・ドーザーは転落後に、後進状態のまま現場に隣接する道路に逸走した。	141	1	～	9
2006	12	～	17	田の排水改良のための暗渠掘削排水スコリア埋め戻し作業現場において、作業終了後に不整地運搬車のバッテリーが不具合であったため、0.1ドラッグショベルとブースターで接続することとなり、オペレーターが運転席キャビンから上部旋回体右前方を覗き込んだ際に、腹部で操作レバーを押してしまい、アームが下降して、オペレーターがアームとキャビンの間に挟まれた。	142	7	～	9
2007	6	～	8	車両整備会社に整備依頼していたブル・ドーザー（4t）を引き取るため、トレーラー（8t）で乗り入れ荷台に積み込んだものの、積載位置が悪く荷台上にてブル・ドーザーを前後進させたところ、高さ約1.2mの荷台からブル・ドーザーとともに転落横転し、その際被災者がコンクリー	141	1	～	29

			ト地面とブル・ドーザーの運転席左側面付近との間にはさまれた。			
2007	5	11 ～ 12	宅地販売業者から貯水池に面する斜面の草刈作業を請負い、刈り終えた草を集めて斜面上方まで運搬する作業を4人で行っていたところ、そのうちの1人が斜面に設置されていた貯水池へつながる排水溝（深さ1.2m）に墜落した。墜落時、被災者は保護帽を着用していなかった。	418	1	1～ 9
2007	9	7 ～ 8	機械を運搬する際、車両積載形トラッククレーンの荷台に当該機械をおさえるために被災者含めた3名が搭乗した。下り坂にさしかかったところ、突然車両積載形トラッククレーンのブレーキが効かなくなり、運転者が「ブレーキが効かない」と叫んだところ、荷台搭乗者3名が危険を察して飛び降り、2名は軽い軽症で済んだものの1名が翌日に死亡した。	221	1	10 ～ 29
2007	2	12 ～ 13	宅地造成工事現場において、L型擁壁築造のためドラグ・ショベルを用いて地山を掘削したところ、高さ5.2m、勾配62度の掘削法面が崩壊し、法面下部のL型擁壁基礎部分の床付け部分にいた作業者が死亡した。	711	5	1～ 9
2007	9	11 ～ 12	被災者が、深さ約2.2mの掘削床に設置されたボックスカルバートの上に乗ってボックスカルバートの側面の目地込め作業を行っていたところ、土砂が崩壊し、その塊が被災者を直撃した。	711	5	1～ 9
2007	2	15 ～ 16	深さ約3.1mの箇所に設置されている仮排水管の撤去作業をドラグ・ショベル運転者と被災者で行っていたところ、仮排水管の上にいる被災者が、崩れた土砂に埋もれた。	711	5	10 ～ 29
2007	6	9 ～ 10	畑の造成現場において、ブル・ドーザーを用いて土砂の押土作業を行っていたところ、路肩付近から土砂を押し出した際に路肩から斜面（高さ約4.5m、法長9.7m）を1回転しながら転落した。	141	1	1～ 9
2007	5	14 ～ 15	水田の区画整理工事においてコンクリート製配水管の設置箇所に盛土を埋め戻していたドラグ・ショベルが作業中に走行停止不能状態になり、被災者がひかれた。	142	7	10 ～ 29
2008	3	10 ～	土地の造成工事における伐採作業において、溜池の斜面にある桜の木（樹高約17m、胸高直径40cm）をチェーンソーで斜面下方向へ倒そうとしたと	712	6	1～ 9



		11	ころ、木が裂けて横方向に倒れて伐採していた作業者が下敷きになった。			
2008	9	16 ～ 17	浄化槽解体工事で電動カッターを壁に取り付けて天端から1.9mの深さで横に切り、続いて全幅4mの壁を縦（幅68cm、厚さ22cm、重量0.8t）に切って6枚に分割していた。切断が最終箇所付近まで進行したとき、カッターが壁に食い込んで停止したため、2人がかりで引き抜こうとしていたときに分割した壁体6枚が手前に倒壊して近くで見ていた被災者が下敷きとなり死亡した。	418	5	1～ 9
2008	9	11 ～ 12	被災者は、同僚作業員2名と事業場の資材置き場において、建設現場で使用が終わり回収したくない打ち機用の敷鉄板（重さ約1t）4枚を貨物自動車からくい打ち機を用いてつり上げ、荷卸し作業を行っていたところ、敷鉄板をつり上げる際に使用していたフック付きチェーンが敷鉄板から外れ、敷鉄板を地面に降ろすために誘導していた被災者に激突して死亡した。	372	6	10 ～ 29
2008	5	14 ～ 15	コンクリート製の杭を地中に打ち込む工事において、25t移動式クレーンのアタッチメントにハンマー・リーダー等をセットした杭打ち機を使用して、コンクリート製の杭をハンマーで打ち込む工法で作業をしていた。ハンマー下部にキャップと呼ばれる緩衝材が据えてあり、そのキャップにセットされていた「やっところ」と呼ばれる鋼鉄製用具がキャップから外れ「やっところ」が被災者を直撃して死亡した。	143	4	10 ～ 29
2008	7	8 ～ 9	宅地造成工事において、被災者は汚水のマンホール内にある昇降用ステップに巻かれているビニールをはがす作業を行おうとしたが、誤って他に設置してある雨水のマンホールに入ってしまったところ、意識を失い倒れた。上司が現場に到着して雨水のマンホールで倒れている被災者を発見し、助けようと雨水のマンホールに入ったところ意識を失った。	418	12	0
2008	8	15 ～ 16	宅地造成工事現場の土木作業に従事して2日目、朝から側溝の掘削、砂利の敷き均しを行っていたところ、午後2時頃から被災者が体調を崩して自家用車の中で休憩していたが、午後3時ごろに被災者の行方が分からないため、現場周辺を捜索したところ、約30分後に現場から約134m離れた道路沿いの雑草の茂みの中に倒れているのを発見したが死亡していた。	715	11	1～ 9

2008	10	10 ～ 11	週明け以降の作業に備えて事業場所有地にトラクター・ショベルを移動させるため、事業場資材置場からトラクター・ショベルをトラックに積み込み、土捨場に向かった。土捨場に到着し、一人でトラクター・ショベルを荷台から下ろそうとしていた時、あるいは、下ろした後にトラクター・ショベルが転倒してヘッドガードの支柱の下敷きになった。	141	2	1～ 9
2008	2	8 ～ 9	木材置き場造成等工事現場で、停車中のダンプトラックの荷台後部付近で立っていた被災者に他のダンプトラックが後進してきたため、停車中のダンプトラックの荷台と他のダンプトラックの荷台にはさまれた。	221	6	1～ 9
2008	8	10 ～ 11	山林で木の伐採後の玉切り作業中に被災者が自ら使用していたチェーンソーで身体を負傷した。	136	8	1～ 9
2008	12	11 ～ 12	作業装置が上げられた状態で停止しているドラグ・ショベルに運転者が乗り、アーム、ブームを上げて右旋回の操作をした。その際、当該ドラグ・ショベルの操作方式が切り替えられていたため、アーム、ブーム、バケットが掘削の方向に動作して当該ドラグ・ショベルの機体とバケットとの間を移動中であった被災者が、地面と当該ドラグ・ショベルのバケットとの間にはさまれた。	142	7	30 ～ 49
2009	2	10 ～ 11	砂利をローラーで均す作業中、被災者がローラーの進行方向に立ち誘導していたところ、被災者が停止の合図をしたにもかかわらず、ローラーが止まらず前進し、被災者をひいた。	144	7	10 ～ 29
2009	9	8 ～ 9	地山掘削現場で、現場から土砂を搬出するため現場に通ずる勾配15度の道路上でドラグ・ショベルにより土砂を積んだ2tダンプカーが発進しようとした際、運転手がギアをバックに入れたが入りが甘く、クラッチ接続の際にギアが抜けた状態となったが、そのままサイドブレーキを解放したためダンプカーが坂道を急速に後進、ロープで固定されていた漁船に激突して前に押し出し、反動で戻ってきた漁船が被災者を直撃した。	221	17	1～ 9
2009	3	9 ～	3棟の戸建住宅宅地造成工事現場において、集水樹の床堀作業を行っていたドラグ・ショベルのバケットが、現場状況の確認のため、溝（深さ約	142	6	1～

		10	1.3m) の付近で写真撮影を行おうとしていた被災者に激突した。			9
2009	2	8 ～ 9	山林の一部を畑にする造成工事において、作業員3人で木の伐採作業中、作業員Aがチェーンソーを用いて木を切断し、作業員Bがドラグ・ショベルにより木を押し倒すという伐倒作業をしていたところ当該木が既に伐倒した木の枝払いを行っていた被災者に激突した。	712	5	1～ 9
2009	3	8 ～ 9	市道脇の所有山林の一部造成のため、ドラグ・ショベルに油圧ブレーカユニットを装着し、岩石を砕く作業を行っていたところ、アームの先端から油圧ブレーカユニットが外れ、機体とブームの間を通過していた被災者に激突した。	145	4	10 ～ 29
2009	7	16 ～ 17	田畑のかさ上げ作業において、ダンプトラックで運搬してきた土砂をドラグ・ショベルの排土板を使って均していたところ、ダンプトラックの荷台のあおり上に残っていた土砂を取り除いていた被災者が前進してきたドラグ・ショベルのバケットとダンプトラックのあおりの間にはさまれた。	141	7	1～ 9
2009	8	12 ～ 13	街路改良工事（一次盛土工）現場において、被災者は地盤改良機械である重機（泥土車）の誘導を無線機を使用して行っていた。重機のオペレーターが無線機で被災者に連絡したが応答がなかったため捜索したところ、海岸の潮だまり（水深1.7m）に被災者が沈んでいるのを発見した。被災者は病院へ搬送されたが死亡が確認された。	713	10	10 ～ 29
2009	9	7 ～ 8	湾の水温、酸素濃度等を測定するため、台船（15m×36m）上において、ドラグ・ショベル（機体重量15.3t）を用途外使用して、A重油が入ったタンク（1.5m×1.6m×1.5m、約2.5t）をつり上げて、旋回した際にドラグ・ショベルが転倒し、運転していた作業員ごと海に転落した。災害発生の約1時間後に運転者が海から引き上げられたが、死亡が確認された。	141	1	10 ～ 29
2010	3	9 ～ 10	油圧ショベルのショベルにワイヤーロープを掛け重さ600kgの手押しローラーをトラック荷台より降ろそうとしたところ（用途外）、油圧ショベルが転倒し、被災者が油圧ショベルの屋根部分の下敷きになったもの。	142	2	1～ 9
		8	被災者の運転するダンプが走行中、スピード超過により左カーブを曲がり			

2010	9	～ 9	切れずに、右側の道路沿いにある街路樹（直径50～60cm）に衝突、ダンプの右前部（運転席側）が大破し、被災者は運転席とハンドルの間に挟まれた。救急隊が救助し病院へ搬送したが死亡した。	221	17	1～ 9
2010	10	～ 11	ほ場整備工事において、現場内に敷設されていたコンクリートU字溝を地元地区から「再利用したい」と要望を受け、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.33t）の荷台にU字溝及び掛け蓋を載せ、地元地区の私有地に運搬し、同クレーンを使用して荷台に積んでいた掛け蓋8枚（重さ760kg）をつり上げ旋回したところ、車体が倒れ、クレーンを操作していた被災者が車体の下敷きとなった。アウトリガーを最大張出しせずに荷を吊ったため、旋回・移動中に過荷重になったとみられる。	212	2	1～ 9
2010	10	～ 14	被災者1名で、スクレーパーの車体後部にあるライト（地面からの高さ2.1m）の交換作業を行っていたが、足場にしていたドラム缶上でバランスを崩して墜落し、頭部を負傷してドラム缶脇の地面に倒れて死亡しているところを、事業主に発見されたもの。ヘルメットは外れて地面に落ちていた。	371	1	1～ 9
2010	10	～ 16	スーパー駐車場跡地のコンクリート壁撤去作業において、斜めに立っていた電柱を真っ直ぐに立て直すため、ドラグ・ショベルのバケットに電柱を引っ掛け、1mバックしたところ、電柱が折れドラグ・ショベル側に倒れてきたので、被災者は慌てて運転席から飛び降りたが、電柱の下敷きになり死亡したもの。	142	6	1～ 9
2010	11	～ 16	建設予定地で埋蔵文化財試掘調査のため幅2m、深さ2m、長さ20mを重機で掘削した後、掘削場所でじょれん・スコップによる調査面を平準にする作業を行っていたところ、前日の大雨により表層の採石層が緩み、開削した部分の側壁の土（約5立方m）が崩壊し被災したもの。崩壊防止がなされていなかった。	711	5	1～ 9
2011	11	～	被災者は、建設現場ヤード敷地内に設置されたプレハブ造の平屋建て仮設事務所の屋根に上って点検作業を行っていた際、何らかの理由により高さ約3メートル下の地面に転落し被災したもの。被災後、被災者は、救急車	415	1	10 ～

		16	にて病院に搬送されたが、3日後の11月12日に頸椎骨折のため死亡したものの。			29
2012	7	11 ～ 12	擁壁造成工事現場において、移動式クレーン仕様のドラグショベル（車体重量12.6 t）により、積みブロックを運搬していたところ、丁張の解体作業をしていた被災者が当該ショベルに轢かれた。	142	7	10 ～ 29
2012	2	14 ～ 15	避難場所整備工事において、斜面での伐採木集材作業中、Y字型の木の一方の端にワイヤーを取り付け、バケットをアイアンホークに変えたバックホウで引っ張り、斜面に対し縦に引きずってきたところ、Y字のもう一端が地面に引っかかり、木が横に向いたため、少し離れていたところで合図を送っていた被災者に激突した。	149	6	1～ 9
2012	6	8 ～ 9	被災者は作業場内の表土除去作業のためにダンプトラックを運転し（最大積載量36.5 tに対して約32 tを積載）、表土を作業場内の指定場所へ運搬していたところ、高さ約260mの地点からダンプトラックごと転落した。被災者は、転落中に運転席から投げ出され、高さ約200mの地点で保護帽を着用した状態で発見された。	221	1	10 ～ 29
2012	1	9 ～ 10	発生した残土を運搬するため、運搬路上を不整地運搬車で走行中、当該機械とともに転倒し、退避しようとした被災者の上に当該機が覆い被さる状態で激突し、当該機は運搬路の側方にある排水路まで転落、被災者は運搬路上に倒れこんだ。なお、発生場所の運搬路の傾斜角度は25度であった。	227	2	10 ～ 29
2013	5	9 ～ 10	被災者は、雑木林を更地にする作業において木の枝打ち中、梯子から転落した。	371	1	1～ 9
2013	5	14 ～ 15	作業員2名でドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様とせず使用していた。）を用いてU字溝を吊って移動させていた。所定の位置において、吊っていたU字溝を地面に置き、被災者が玉外しを行っていたところ、ドラグ・ショベルの操作を誤り、バケットとU字溝に被災者がはさまれた。	142	7	30 ～ 49
		14	民家の造成工事において、民家の裏山部分を地面から高さ約4 m掘削（勾配約80度）後、被災者は、この掘削した地山と民家の間に水路を設ける			

2013	5	～	ため型枠を組み丁張作業中、この掘削した地山が崩壊した。崩壊した土砂が被災者の下半身まで埋まり、転倒した際、ドラグショベルの排土板で頭部を強打し死亡した。	711	5	1～ 9
2014	12	15 ～ 16	伐採現場にて、チェーンソーで伐倒した杉の木が、前方にいた被災者に激突した。	712	6	1～ 9
2014	11	8 ～ 9	倒木の伐倒作業中、立木が裂けて倒れ、跳ねて被災者に当たった。	712	6	50 ～ 99
2014	10	16 ～ 17	調整池の排水パイプのゴミを取り除く作業中、調整池内の直径20cmの排水パイプに脚の太もも付け根まで吸い込まれ、抜けなくなり、流入してきた雨水に溺れた。尚、災害発生時、台風接近に伴い、強風、大雨、洪水、雷の各注意報が発令されていた。	713	10	10 ～ 29
2014	8	8 ～ 9	車両積載形トラッククレーンを後退させていたところ、ドラグショベルの整備を行っていた被災者は、トラッククレーンの後方荷台部分とドラグショベルのバケットの間に挟まれ、死亡した。	221	7	30 ～ 49
2014	8	17 ～ 18	大雨により、工事現場が浸水し、被災者は膝下当たりまで水に浸かり、建築資材の回収作業を行っていた際、水流が急激に増し、胸元当たりまで水かさが増加。移動中に深みにはまり、溺れた。	713	10	1～ 9
2014	6	14 ～ 15	ドラグショベルで掘削等作業中、掘削面のコンクリートがらが落下し、被災者に激突した。	142	4	1～ 9
2014	4	16 ～ 17	パワーショベルで未整地の場所を走行していたところ、パワーショベルが転倒し、被災者が運転席から投げ出された。	142	2	1～ 9
		16	被災者は、砂利を敷く作業を行うためドラグ・ショベルを運転していた際、エンジンを止めずに降りようとしたところ、雨合羽が旋回レバーに			30

2014	3	17	引っかけり、ドラグ・ショベルごと旋回した後、クローラーとキャビンとの間に胴体を挟まれた。	142	7	17	～ 49
2014	2	18	被災者は、県道交差点改良工事現場付近にて、工事完了検査用書類に記載する現場の状況を、しゃがんだ姿勢で確認していたところ、交差点に進入してきた一般車両の軽トラックにはねられた。	221	17	18	1～ 9
2014	1	16	路面の高さを揃える路盤生成作業中、ドラグショベルで路面を削ったり盛土したりするため、前進と後進を繰り返していた。被災者は、ドラグショベルの後方でしゃがんでいたところ、（被災者に気づかずに）後進してきたドラグショベルに轢かれた。	142	7	16	1～ 9
2015	10	0	ガソリンスタンド跡地の土壌浄化工事において、土質改良機（掘削した油分を含む土砂と石灰を攪拌、混合して、土砂に含まれる油分を石灰に吸着・包合して土壌を改良する機械）の土砂ホッパー上にいた被災者が、ホッパー上から降りよう指示されたため、ホッパー内を移動する際、ホッパーに取付けられたベルトコンベアー上に墜落又は乗った際にバランスを崩し転倒したため、全身を攪拌機内に運ばれ、巻き込まれ死亡したもの。	149	7	10	1～ 9
2015	5	10	被災者らは、造園工事において、土地造成に伴う石積み作業を行っていた。被災者は、積載型トラッククレーンを用いて、鉄板（重さ約120kg）2枚を当該トラッククレーンの荷台に積み、アウトリガーを格納していたところ、当該トラッククレーンが後退し、隣接して駐車していたブルドーザーの排土板と当該トラッククレーンの間にはさまれた。	212	6	10	1～ 9
2015	3	16	建設業を行っている事業場の土取り場の前方が下がった場所で、ダンプカーに積んだ土砂を下し、50cmほど前進させダンプカーの前面で用を足していたところ、動き出したダンプカーにひかれたもの。	221	7	16	10 ～ 29
2015	7	12	宅地造成工事現場において、クレーン機能付き油圧ショベルを使用し、仮設用敷鉄板（3.0m×1.5m／802キログラム）をトラック（4t）に積み込む作業を行った際、敷鉄板が吊り具から外れ、トラック近くで左官作業をしていた被災者に落下した。被災者は当該敷鉄板と隣接する	372	4	12	1～ 9

			ブロック塀との間に挟まれ死亡した。			
2015	11	11 ～ 12	チェーンソーを用いて斜面の立木の伐木作業を行っていた被災者が、倒れてきた杉の木に当たり、倒れているところを、約50m離れた場所で作業を行っていた他の労働者に発見され、その後、頭部外傷で死亡したもの。現場の状況から、被災者が被災時に伐倒した椎の木又は他の木のかかり木になっていた、もしくは、つるに引っ掛かっていた杉の木が、椎の木と共に倒れ被災者の左側頭部に激突したものと推定される。	712	6	10 ～ 29
2016	11	13 ～ 14	被災者と事業主の2名で、当該事業場と事業主自宅を兼ねる敷地内の庭において、顧客に見せるための庭を整備中、被災者が飾り用の古木をワイヤーで玉掛けした後、事業主がドラグショベルを運転し当該古木を一本吊りで吊上げ移動させた際に、吊上げた古木が立木に衝突して古木先端部が折れ、これが飛来し被災者の頭部に激突した。	141	4	1～ 9
2016	9	13 ～ 14	被災者は、タイヤショベルのオペレーターである。盛土した作業用通路（長さ約10m、幅員約5.5m、高さ約1m）を空荷で後進中、左後輪が路肩から逸脱して横転、約1m転落したタイヤショベルの運転席フレーム部分の下敷きになった。	141	1	30 ～ 49
2017	10	8 ～ 9	被災者らは碎石場内に構築したブロック積みの法面の補修を行うべく、法面の天端で転圧作業を行っていたところ、突如法面が崩壊し、使用していたドラグショベル、タンパーとともに墜落、崩壊した土砂やコンクリートブロックの間に生き埋めとなった。	418	1	0
2017	10	10 ～ 11	機体重量3.65tのブルドーザーを使用して整地作業を行っていた被災者が、整地箇所から農道へ通じる傾斜11°程度の仮設の通路において、当該ブルドーザーのクローラーの下敷きになっているところを発見された。	141	6	10 ～ 29
2017	8	14 ～ 15	単軌条運搬機を使用しての集水用溜枿の設置作業中、被災者が軌条付近で型枠の部材を探していた際に、山側から後退してきた単軌条運搬機の荷台に体を挟まれ、腹腔内出血により失血死した。	223	6	1～ 9
			宅地造成工事現場において、マンホール・管の設置作業中、型枠にコンク			



2017	7	18 ～ 19	リートを流し入れたところ、型枠が開き、壊れる危険が生じた。そのため、被災者と現場の副責任者の2名で型枠の補強を行うべく、掘削した箇所に進入したところ、側面の土砂が崩壊し被災者に降り掛かり生き埋め状態となり、翌日に死亡した。	711	5	～ 29
2017	7	12 ～ 13	ほ場区画整理工事現場において、被災者はブル・ドーザー（機体重量7トン）を運転し整地作業中、エンジンを掛けた状態で運転席を降り左側クローラの上に立ったところ、ブル・ドーザーが後進し被災者は地面に墜落、クローラに轢かれた。	141	7	30 ～ 49
2017	7	6 ～ 7	被災者は、土砂を運搬するダンプトラックの運行経路上で、ダンプトラックに背を向けて立っていたところ、後退してきたダンプトラック（最大積載量11t）の左後輪に轢かれた。	221	7	1～ 9
2017	6	16 ～ 17	ほ場整備に関連する区画整理及びその付帯工事において、高さ約2メートルの仮置き土砂の山の斜面で、不整地運搬車に搭載した掘削土砂を排土していたところ、不整地運搬車が傾き浮き上がりそうになった。身の危険を感じた被災者は運転席から離れようとした際につまずき、地面へ墜落した。	227	1	～ 29
2017	6	8 ～ 9	自社が元請で作業を行うため自社の作業者が乗車した社用車が、市内の建設現場に向かう途中、高速道路ポスト先の路上で前方左から合流してきた準中型貨物自動車と接触し、乗車していた車両が横転。横転した車内で頭部を強打した。	231	17	10 ～ 29
2017	2	14 ～ 15	斜面に置かれた伐倒木を集積するため、ドラグ・ショベルのバケットの爪にロープを掛け伐倒木を斜面から引き上げる作業を行っていたところ、その過程で、玉掛けを行う労働者がバケットと接触した。	142	6	1～ 9
2017	2	8 ～ 9	宅地造成工事において、隣地付近に擁壁を設置するために、掘削作業を行っていたところ、隣地に設置されていたブロック塀が倒壊し、付近で掘削作業を行っていた労働者が挟まれ・死亡した。	418	5	1～ 9
		8	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、			10

2017	1	9	溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレイカー等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。	711	5	～ 29
2017	1	8 ～ 9	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレイカー等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。	711	5	10 ～ 29
2017	1	14 ～ 15	被災者が移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルを運転してローラーをつり上げようとしたところ、過荷重となり、同ローラーとともに、3m下の川底に落下し、ドラグ・ショベルの下敷きとなり死亡した。	142	1	10 ～ 29
2018	11	10 ～ 11	被災者は胸高直径30cm、高さ16mの立木を伐倒するため、チェーンソーを用いて受け口と追い口を入れた後、2.7m離れた西側にある立木の裏側に退避した。立木は予定した方向である北東側へ倒れ始めたが、立木の上部に絡まっていたつるにより倒れきらず、同僚労働者が木材グラップル機のグラップル装置の側面で軽く押したところ、立木の根元側が西側へ向かって滑走したため退避していた被災者は激突された。	712	6	10 ～ 29
2018	7	8 ～ 9	大雨のため、造成工事現場の点検を6人で行っていたところ、豎坑（沈砂池）で浮遊しているバイオログフィルター（沈砂池のフィルター材）を発見し、取り除こうと、ロープにて引上げ作業中、被災者Bが水の勢いで豎坑内に落ちかけ、救助のため被災者AとCの2名が豎坑に近寄った際に水の勢いで3名とも豎坑内（高さ約4m）に落下し、排水管（本管）内を流されたもの。被災者Aは約600m下流で救出されたが死亡した。	713	1	50 ～ 99
2018	6	16 ～ 17	造成工事中、スクレイパーの運転手が打ち合わせのため、運転席から降りて履帯の上に立ち、近くにいたブルドーザーの運転手と話をしていたところ、スクレーパーが動き出して履帯から前方に転落し、両大腿部を履帯に轢かれ被災した。現場は下り勾配（約10%）であった。	141	7	10 ～ 29
		14	事業場敷地内の破損した倉庫の屋根（ポリカーボネート樹脂板）の修理作業を単独で行っていた被災者（元大工）が、高さ5.57mの屋根の波板			

2018	3	～	を踏抜き、地上に墜落し倒れているのが発見された。被災者は病院に搬送されたが、死亡が確認された。発見時の被災者は保護帽、安全带ともに未着用であり、屋根に防網等も設置されていなかった。	415	1	1～ 9
2019	11	～	造成工事現場において、重機を搬入する仮設道路を作るため、砕石を敷きならす作業中、後退してきたドラグショベルのキャタピラーに下半身を巻き込まれた。	142	6	1～ 9
2019	10	～	14 16 宅地造成工事での下水道敷設のため片側交互通行としていた現場に、軽自動車交通誘導員の制止を無視し、バリケードを抜け、スピードを出したまま進入し、作業員1名が10mほど引きずられて死亡、ほか1名が重傷を負った。	231	17	10 ～ 29
2019	8	～	16 18 造成工事において、施工管理の補助業務を担当していた被災者が、業務を終え、帰宅するため最寄り駅へ徒歩で向かった。同日に駅構内のエスカレーターを降りたところで倒れている被災者が駅利用者に発見され、病院に搬送されて熱中症の診断を受け、治療していたが、8日後に死亡したものの。	715	11	100 ～ 299
2019	6	～	10 12 擁壁築造のための基礎コンクリート打設を行うため、高さ約6mの地山の基底部分をドラグショベルですかし掘りしたところ崩壊し、全身が生き埋めとなったもの。	711	5	1～ 9
2019	3	～	6 8 鶏舎の2階と高台に架かる通路橋（傾斜していて、幅約4m×長さ約20m）の下を舗装する工事にて、アスファルトフィニッシャーを運転し、通路橋の下へ後進させたところ、通路橋の横梁（高さ1.5m）とアスファルトフィニッシャーの車体（高さ約1.8m）との間に運転手が上半身を挟まれた。	149	7	10 ～ 29
2019	3	～	14 16 畑の造成現場で出た木くずや杉枝等の廃材を片道20分程度離れた事業場資材置き場に2tダンプトラックで向かった被災者が帰ってこないことから同僚が確認しに向かったところ、同資材置き場から100m程度手前の農道から私道へ入るカーブの路肩の斜面約15m下にダンプトラックが転	221	17	1～ 9

		<p>落し被災者が下敷きになっているのを確認した。被災者は現場に到着した医師により死亡が確認されたもの。</p>			
2019	2	<p>10 汚水管（直径20cm、長さ4m）を敷設するために、地山の掘削、汚水管の据え付け、埋設等、一連の作業を3人1組で行っていた。汚水管を2 12 本目まで敷設し、地上のマンホール周辺を地固めしていたところ、被災者が掘削面（地上から1.6m）に立ち上がった瞬間にボックスカルバート付近の土砂が剥離崩壊し、土砂に埋もれ死亡に至った。</p>	711	5	1～9
2019	1	<p>14 道路新設工事で、その予定地にある樹木を伐採し搬出する工程において、被災者がチェーンソーを使用して伐倒した樹木の玉切り作業をしていた 16 が、同人がその現場付近で倒れていたところを、少し離れた場所で作業していた事業主が発見したもの。なお、事故発生時の目撃者はいない。また、目立った外傷はないものの、顎の骨折が認められた。</p>	136	6	1～9
2020	9	<p>10 宅地造成工事において、下水管敷設のため、幅90cm深さ2m長さ14mの溝を9時からドラグショベルで掘削し、11時ごろに掘削作業を終 12 え、被災者は溝の深さを1人で測定していた。11時20分ごろドサッと音を立てて掘削面の半分以上が突然崩壊したため、別の場所に移動していた作業員らが覗いたところヘルメット以外土砂に埋もれている被災者を見つけたもの。</p>	711	5	1～9
2020	4	<p>14 伐倒木（高さ約8m・胸高直径60.8cmの枝払い前の雑木、チェーンソーによる伐倒ではなく、ドラグショベルで掘り起こして押し倒したもの。）を掘削用バケットを装着したドラグショベルで移動して仮置きした 16 ところ、当該伐倒木が斜面を2メートル程度滑り落ち、下方にいた被災者に激突して被災したもの。災害発生からおおよそ2時間後に死亡が確認された。</p>	712	6	10～29
2020	4	<p>8 ドラッグストア建設地造成工事現場において、被災者は、基礎工事等に係る掘削を行うため、ドラグショベルを運転し傾斜角約30度の地山スロー 10 プを下ろうとしたところ、当該ドラグショベルがバランスを崩し前方へ転倒、被災者が運転席から投げ出され、当該ドラグショベルのアームと地山</p>	142	2	1～9

			の間に頭部が挟まれ死亡したもの。			
2020	2	10 ～ 12	太陽光発電所建設工事現場の雨水排水工事において、プラスチック側溝を仮置き場から施工箇所付近まで運搬する業務を行っていた際に、施工箇所付近にて不整地運搬車に積まれた側溝をドラグ・ショベルを用いて荷下ろし作業を行うにあたり、被災者が不整地運搬車の後ろで玉掛け用ベルトスリングを持って待機していたところ、近づいてきたドラグ・ショベルと不整地運搬車の間にはさまれ、死亡したもの。	141	7	1～ 9
2020	1	8 ～ 10	住宅造成工事現場において、被災者は地山を掘削した後の法面（高さ約5m）の下で、当該法面の手前に擁壁を設置するためにブロックを積み上げる作業をしていたところ、法面が崩壊し、被災者が土砂に埋まり死亡したもの。	711	5	1～ 9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。